



三ツ口山に立つ山荘の前で、山の幸を味わう参加者ら

広葉樹の森へ手応え

三ツ口山で活動16年

熊野市五郷町湯谷の三ツ口山(946㍍)で、スギやヒノキが伐採されて荒れ果てた山を広葉樹の森に再生する取り組みが続いている。スギが生い茂っていた山にはケヤキやトチノキなどが植えられ、イタドリやワラビといった山菜も豊富になった。一部は「森林空間活用林」として一般に開放され、地域の人たちの憩いの場にもなっている。

一部開放、恵み味わう

「この場所で森づくりを始めて16年目。広葉樹の山が徐々に育ってきた。今日は山でとれた山菜や川魚を味わってもらいたい」
 今月18日、三ツ口山で行われた「豊かな自然の恵みと美しさを味わう集い」。



自然林の再生に取り組み辻本力太郎さん(78)は写真の参加者
 自然林の再生に取り組み辻本力太郎さん(78)は写真の参加者
 初夏の三ツ口山には、約1500本のヤマアジサイ

が咲き誇り、耳を澄ますとウグイスの鳴き声や虫の羽音が聞こえる。集いで用意

された山の幸は、地元で捕獲したシカとイノシシのパイベキュー、熊野市の清流・大又川でとれた天然アユの塩焼き、トチの実入りのパンやよもぎ餅など。
 参加者は広葉樹の山を歩いたあと、辻本さんの話を聞きながら自然の恵みを味わった。和歌山県那智勝浦町から訪れた会社員女性(64)は「いろんな木が植えられ、山菜も多く、まさに生物多様性の森。これまで訪れた山とまったく違つ」と感動した様子だった。

辻本さんは地元の中学を卒業後、熊野市などを管轄する旧新宮営林署に勤めた。スギやヒノキの造林に従事していた若い頃から「地面に光が当たらず、下草も生えないような針葉樹ばかりでええんやろか」と疑問を感じていたという。
 様々な生き物が集う広葉樹の森を造ろうと、三ツ口山の45㍍を購入。2002年から周囲を高さ約2㍍の獣害防護柵で囲い、ケヤキやトチノキのほか、カシやコナラなど十数種類の木を植えてきた。沢に生息する川魚には餌を与え、

45㍍購入・辻本さん 共感呼ぶ

ミツバチの巣箱も設置した。
 今年3月には、神奈川県の社会福祉法人「進和学園」がこの取り組みを知り、同法人が運営する「いのちの森づくり」基金を活用して知的障害者が育てたウバメガシの苗木300本を寄贈した。実を結びつつある自然林の再生活動は、確実に共感を呼んでいる。
 辻本さんは「様々な種類の木を植えて森づくりの下地はできてきた。次は苗木を保育する段階に入る。三ツ口山をみんなのものだと思つて、山遊びを楽しんでほしい」と話している。